

末期患者のケア
—食べることを支える—
(概要)

学校法人金城学院学院長
柏木哲夫

末期患者は全人的な痛みを経験する。身体的、精神的、社会的、霊的な痛みである。ホスピス緩和ケアの目的は患者の QOL を高く保つことである。そのためには、痛みをはじめとする不快な症状のコントロールが重要になる。

末期患者はほぼ全員、食欲不振と全身倦怠感に悩む。この二つの症状を改善することはかなり難しい。特に「食べる」ことは、生きていることの証であり、食べられなくなると患者も死を意識せざるを得なくなる。末期患者の QOL を考えるとき、食べることを支えることが重要になる。末期医療の現場においては、患者に食べてもらうために様々な工夫がなされているので、その具体的な例を紹介する。